

小児漢方治療の手引き発刊に寄せて

日本小児東洋医学会 前理事長 和田恵美子

このたび、念願の小児漢方治療の手引きを発刊する運びになりました。日本小児東洋医学会薬事委員の山口英明先生を中心に、学会員への配布資料ないしはホームページ上での閲覧資料として、検討を進めてきました。しかし、より具体的に日常の診療に、手元に置いて役立つ目的から、崎山武志代表理事の強い意向で、各論と総論の一部を追加して、理事・代議員の先生方が得意とする分野を執筆していただきました。そして学会員以外でも、小児の診療や看護・養育に携わる方にも役立つ小児漢方の本として、学会誌を発刊している小児医事出版社から発刊することになりました。漢方治療は証に合わせて治療するのが原則のため、著効例は症例報告が多くRCT (randomized controlled trial) のような質の高いEBM (evidence-based medicine) が得られにくいという難点があります。従って診療ガイドラインを作るまでには至らず、診療の手引きとなりました。この手引きを執筆された先生方はいずれも第一線で活躍されている先生方で、日常診療で経験する項目が網羅されていると思います。最近では漢方治療を外来で取り入れている先生方も多くなりました。まずこの手引きを参考に試してみて、感触を確かめてみるのが早道です。すぐ効くもの、なかなか効果があらわれないものなど実際の症例はさまざまです。うまく効果が表われない時には、もう一度患児の体質や日常生活を見直し、全体を捉える訓練をして漢方治療のコツをつかんで欲しいと思います。症状だけにこだわると上手くいかないことがあります。この手引きを基に、漢方の診療方法も学んで、漢方を自分のものにしてくださるようお願いしています。